

郵趣振興協会 活動報告

2019年12月6日～2020年3月4日

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

特定非営利活動法人 郵趣振興協会(以下「当協会」と略す。)は、その活動について広く伝えるため、3ヶ月に一度レポートを発行し、電子メール等で賛助会員にお伝えすると共に、無料でご掲載いただける雑誌媒体に同一内容を提供しております。

理事2名の増員を含む経営体制の変更を決定

当協会は、2019年度に活動が飛躍し、活動量が増えたことから、12月28日に臨時総会を開催し、2名の理事を選出いたしました(下記2名)。これで理事の人数は、定款上限の5名となりました。

理事 齋 享 (さい とおる)

理事 菊地 恵実 (きくち えみ)

また、2月2日には理事会を開催し、代表理事を3名から1名に減らすことを決定し、理事会議長である吉田敬を除く4名の理事で決議を行い、満場一致で、以下の代表理事を選出しました。

代表理事 吉田 敬 (よしだ たかし)

これらの決議をへて、今後、当協会は、以下の経営体制で活動を行ってまいります。賛助会員の皆様、よろしく願いたします。

代表理事 吉田 敬

理事 行徳 国宏、齋 享、池田 健三郎、菊地 恵実

監事 横山 裕三

新型コロナウイルス感染症の流行に伴う、政府の大規模イベントの「中止」「延期」要請等に伴い、各種行事の中止・延期を決定

2月25日に当協会は、独自の判断で、現況下での飲食を伴う会食は不適當であると判断し「ジャパンフィラテリストサミット2020」の中止を決定し、参加予定者にご連絡差し上げ、別途、返金を実施いたしました。

その翌日の2月26日に首相記者会見があり、同日以降2週間の大規模イベントの「中止」「延期」要請がありました。この要請を受けて、「スタンベックスジャパン2020」の開催日程を当初の3月6-10日から4月3-5日に変更することを共催の郵政博物館と決定しました。なお、この日程での開催についても、3月19日までの臨時閉館が決定した郵政博物館の再開館後の状況を見て、改めての「中止」「延期」の可能性がございます。

今回の様な前例ない事態には正解がありません。それだけに結論を先送りにしない早めの決断が大事と捉え、決断時点で集まった情報を元に経営判断しましたので、ご了解いただきたく存じます。

全国切手展 『スタンベックスジャパン2020』等の準備状況の報告

延期の件については前項で報告の通りですが、それ以外の準備状況について報告いたします。

まず、作品の出品申込締切は12月17日でした。第一回目の展覧会でどれだけ集まるものかと心配していましたが、20作品115フレームのご応募をいただき、数量的には十分な量が集まりました。このご応募を受けて、12月20日には、作品選定委員会を開催し、17作品100フレームの選定を行い、出品申込者に選定結果を12月27日に通知（郵送）すると共に、1月1日にホームページで発表いたしました。

年明けからは、実行委員会の活動が活発になりました。事務局長の横山裕三さん、補佐して下さる長野行洋さんを中心に、昨年中に、郵政博物館の担当者も交えた会議を数度行っておりましたが、この活動に菊地恵実さんが加わり、展覧会の設営・運営・撤去に加えて、表彰式も兼ねるジャパンフィラテリストサミット2020の準備と参加者募集も開始されました。

2月2日には、実行委員顔合わせも行われ、10名が参加し（写真）、当日の準備を万全なものにしました。



実行委員会の様子（手前左は横山事務局長、同右は行徳委員長）

独立に活動している審査委員会には、まず、12月中に、全ての出品者のタイトルページ・サンプルページ・出品申込票が製本された、審査員限定の資料が届けられ、資料を通じた出品作品のチェックが始まりました。

これらの活動と並行する形で、郵政博物館や後援企業とのやりとりもマーケティングの観点から進めております。

郵博 特別切手コレクション展（2020年度）の開催スケジュールの追加

「郵博 特別切手コレクション展」の2020年度のスケジュールについては、昨年10月25日に発表いたしました。締切後に一件の追加申し込みがありました。日程調整の結果、以下の団体の展示を行うことが決定いたしました。

| 日程 | 展覧会名称 | 副題・説明等 | 展示団体 |
|---------|-------------|------------------------------------|-------------|
| 5/16-17 | 郵便制度史展 2020 | ポスタル・ヒストリーのメイン・ストリームを織りなすコレクションの数々 | 郵便制度史展実行委員会 |

「スポーツ切手展」「from 1896 to 2016」への協力を決定

「スタンベックスジャパン2020」は、2月22日～4月5日と長期にわたり、郵政博物館が開催する「世界切手展」の一部として開催されます。「スタンベックスジャパン2020」以外の部分の展示についても、同博物館より主催としての協力を求められましたので、これにお応えし、展示や展示して下さるフィラテリストのご紹介をさせていただきました。

『切手コレクション展示パネル』移動に伴う備品の増強について

郵政博物館および倉庫である同資料センターにおける展示・撤去作業の効率化ならびに格納スペースの極少化を狙い、可動式収納台車1台および台座・ポール収納台車（右写真）1台を発注いたしました。

この内、『台座・ポール収納台車』については、当初の導入計画には漏れているものですが、郵政博物館と協議する中において、展示・撤去作業の軽減ができる可能性が高いとして、一台導入するものです。とはいえ一台の価格が15万円近く、2台目以降の導入にあたっては、費用対効果を検証の上、2020年度に行いたいと考えております。

なお、これらの支出は、「切手コレクション展示パネル」改修委員会の、2019年度予算120万円(使用金額77万5987円)の残額を充てました。



2019年度決算の締め作業に着手

当協会では、会計の透明性を高めるために、収入・支出について、オンライン経理処理システムを使用して、できる限りリアルタイムで入力処理を行っています。(通帳記帳含めて)

2019年度決算については、当初はスタンベックスジャパン2020の閉幕後に開始する予定でしたが、同展覧会が会計年度的には2020年度の開催と変更されましたので、2019年度決算の締め作業に着手いたしました。

当協会の支出の内、大きなものは、郵博 特別切手コレクション展開催に伴うパンフレット外注費と、切手コレクション展示パネルの備品管理費用です。本年度は「切手コレクション展示パネル」改修委員会を設けたことから特に後者の金額が大きくなっておりますが、現時点では、当初設定した委員会上限予算120万円の範囲に収まっております。

賛助会費・特別賛助会費については、昨年とほぼ同額が集まり、協会の運営にあたっては、健全な財務状況を担保できていると考えております。

2020年度の賛助会費更新の準備を開始

2020年度の賛助会費更新のお願いを3月中に郵送でご案内できるように手配したく準備中です。どうぞ来年度も継続してご参加くださいますようお願い申し上げます。

各種事業の進捗について

当協会は「2019年度事業計画書」において、5つの事業を計画しております。

それらは「エキシビション事業」「フィラテリー必需品サプライ事業」「リサーチ及び研究推進事業」「フィラテリックPR事業」「次世代育成事業」の5つです。当クォーターにおける、各事業及び総務ほかの進捗をご報告いたします。

エキシビション事業

郵博 特別切手コレクション展（2019年度）等の展覧会を、郵政博物館と共催で2回開催。

2/1-2 第3回いずみ展

2/22-3/1 スポーツ切手展

*「スポーツ切手展」は、世界切手展（郵政博物館）のお手伝いをしたものです。

郵博 特別切手コレクション展（2020年度）追加開催スケジュール1件を、郵政博物館と決定。
全国切手展「スタンベックスジャパン2020」実行委員会の活動のサポート。

フィラテリー必需品サプライ事業

「ヒンジ・カバー用コーナー・透明マウント」の3品目を最重要対象品とした、Amazon.co.jpにおける供給体制を維持。（本事業は随意契約の形で、無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社に委託しています）

リサーチ及び研究推進事業

リーフ作成雛形提供事業の準備を継続中

フィラテリックPR事業

ウェブサイトにおける情報発信を実施（12-2月で26件。対前四半期+100%）

次世代育成事業

スタンプクラブ「月刊切手ニュース」への協力

総務ほか

臨時総会を開催（12/28）

理事会を3回開催（12/16, 12/26, 2/2）

2019年度決算の準備開始

2020年度賛助会費更新準備の開始

（報告者：代表理事 吉田敬）